

## 卒業を前に

医学部医学科 森 俊平

卒業を控えて振り返れば、多くの得難い出会いがあった。六年間共に過ごした仲間もあれば、ほんの一時、同じ時間を過ごしただけの人々もいた。それぞれの人が皆それぞれに俺には無い輝きを放っていて、ただただ素直に感動させられた。彼らを鏡にして振り返ってきた自分自身は、どうしようもなく小さくて、下らぬ男だった。総じてこの六年間は、俺は何者なのかを深く考える日々だったが、おかげでどうやら、現時点で目指すべき方向が見えている気がする。彼らの輝きの前に、俺もまたかくありたしと思って営む毎日だったが、卒業を目前に控えた今、入学当時と何も変わらぬ堅くて融通の効かぬ男がますます悪くなって在るだけなのかもしれない。つくづく俺はいい出会いに恵まれた果報者だと思う。縁とは言いながら、彼らと出会わなければと思うと恐ろしいような気さえる。卒後、それらの人々と別れるのは正直とても寂しい。本当に何物にも代え難いと思う。だが今は前を見れば、恐らくまた、ぞくぞくするような出会いがこの先俺を待っている。どんな凄い人が、そう考えると楽しみでならない。



本人右端

## 旅立ち

歯学部歯学科 山崎 佐保里

6年間を振り返ってみて、勉強や実習が大変だったことや頑張った事が思い出されるのはもちろんのことであるが、それと同時に、楽しかった旅行なども思い出される。

新潟のあちらこちらに温泉がある事と私の温泉好きが功を奏し、いろんなお湯につかった。「はぁ～、極楽極楽」なんておばさんっぽいけど、試験が終わった後に入る温泉は本当に極楽極楽。

海外旅行は4年生の夏にヨーロッパ、6年生の夏にアメリカへ行った。ヨーロッパ旅行は1ヶ月の夏休みを利用して、ベルギーでのホームステイ及び周辺の国々を訪れて、建築物、美術館巡り三昧であった。大学時代にしかできない貴重な経験であった。それにしても、英会話が全然上達しなかったことは非常に残念である。卒業後も、私の課題の1つになりそうである。兎にも角にも新しい旅立ちに際し、6年間の経験を大いに生かしたいと思う。



### Feature : 学生生活



本人中央

## 四年間をふりかえってみて

農学部農業生産科学科 越 洋

専門高校から入学してきた自分にとって、四年間で最も大きな壁が英語であった。教養必修の英語では、苦痛であった記憶しか思い出せない。そんな時、平成11年度から農学部には、英語・化学・物理の補講制度が導入された。その中で英語を補講した自分は、教授や仲間の協力もあり、基本的な知識を学ぶことができたことに今でも大変感謝している。しかし、本来、学問の基本となる基礎は自ら学び、高度な学問を学ぶところが大学なのであろう。現在、大学生の学力低下が問題となっている。その中で、基礎知識に欠け、補講を受けていたことは、教育目標にある「教育の充実と研究の高度化」に対し、足手まといとなっていたかもしれない。今となって非常に悔やまれる。最終学年となり、このことに気付くとは遅すぎたかもしれない。この状況を改善するためには、早めの目標設定、目標を達成するための素早い行動、が不可欠である。



本人 後列右から2人目

## 自分自身と向き合えた3年間

医療技術短期大学部看護学科 風間 藍子

看護について学んできた3年間、一日一日を乗り越え、一気に突っ走ってきたような気がします。

看護は人とひととの関わりです。患者さんを中心に多くの人との出会いがありました。患者さんと関わる中で、看護の知識や技術を学習させてもらったのは勿論のこと、私は自分自身について考える機会を与えてもらったと考えています。患者さんと向き合うことを通して、自分と正面から向き合い、自分は何を考え表現したいのか...気づいた自分、見えてきた自分が多かったと思います。また、思うように行動できない自分に焦ったり苛立ったりしたとき、支え、力強く背中を押してくれたのは、周りにいる仲間でした。

多くの出会いと関わりに支えられ、自分探しとともに進んできた道のりで得たものは全て、私にとって、これから新しい環境へ前進する原動力です。この原動力を胸に、自分の信念をきちんと持つ看護者でありたいと思います。

## キャンパスライフについて

医療技術短期大学部診療放射線技術学科 伊藤由香里

医短に入学して3年。この3年間は、本当にあっという間に過ぎ、学生生活の終わりを最近特に実感しています。

医短で過ごした3年間で「実習発表会」は私の中で忘れられない思い出になりました。この発表会の準備のため、毎日実習が終わった後も病院に残り実験し、また大学に戻って話し合い...と帰りも遅く、なかなか納得できない自分に苛立ち、仲間にも迷惑をかけたと思います。しかし、この仲間や周囲の協力があつたからこそ、最後まで頑張って1つのものを完成させることが出来たと思います。発表後に感じた達成感・喜びは、これから社会人となる私の大きな自信になると思います。

私が学生生活を楽しく過ごせたのも、人間として成長できたのも、今までに出会った沢山の人の人のおかげだと思ひます。これからもその1つ1つの出会いを大切にしていきたいと思ひます。



本人中央

## 部活の思い出

法学部法学科 横山 志保

「ご趣味は?」「お茶を少々」

こんな会話に憧れて裏千家茶道部に入部したのは1年の4月でした。大学に入学したばかりの頃は、したいこともたくさんありました。部活はもちろんですが、ほかにもバイトに旅行、友達と遊んだり、それから勉強も。週2回の練習はそれほど負担にならないはずでした。部活は部活、あとの時間は有意義に、と考えていたのに、気がついてみればよく遊ぶ友達は茶道部の人、バイトも茶道部の先輩の紹介で。最初の思惑とは多少違いましたがともかく私の大学生活は茶道部のおかげで順調に始まりました。お茶の練習だけではなく、お茶会の準備に旅行の計画、各種イベントを準備して...と、茶道部中心の生活が続きました。

そんな私の日々も、少しずつ変わってきました。なかでも、1年間の韓国留学が大きな転機になりました。部活の他にも大切なことがどんどん生まれてきて、だんだん部活から遠のいていきました。お茶会に出るのも、その準備も練習も楽しくて好きですが、今の私にとって、茶道部はそれほど大きな存在ではありません。それでも、大学で何をしたか、と問われれば「茶道部」と答えると思ひます。一番ではありませんが。



学生生活 部活：Feature



## Tigers American Football

工学部情報工学科 望月 伸一

最初このアメフト部は上下関係や練習などが厳しいものだばかり思っていました、いざ入部してみるとそれまでの考えが全て覆されました。上級生と下級生の区別がつかないほど上下関係が無く、活動内容も完全に学生主体で、拘束されることもなく自由な部でした。にもかかわらず、部内のモラルはしっかりしており、何よりもまずその勝利への貪欲な姿勢は他のどの体育会よりも強いものだと思います。そして4年間この部でやってきて得たものは、数多くの勝利の喜びと、そして一つの目標に向かって仲間全員が一丸となって進んで行く事の大切さ、又、それらは周囲の人々の協力無しでは絶対に成し遂げる事の出来ないものであるという事。これらはきっとこれからの人生の糧となってくれると思ひます。最後に今まで一緒にやってきたチームメイト達、又、監督、コーチを始めとするタイガースに携わってくださった方々へ、本当に有難うございました。



本人 コート内右側

## サークル、部活等について

医療技術短期大学部衛生技術学科 佐藤 文昭

自分の三年間という短い学校生活を振り返ってみて大きかったことは部活に入ったということです。初めは大学生活の中でできるだけ多くの知り合いを増やしたくて入部しました。僕が入った年は医短からは男が僕だけで心細かったのですが、先輩に可愛がってもらい、そのうちに医学部の同級生とも仲よくなり次の年には医短から五人の後輩が入ってきて新大の中だけでなく部活を通して他県の大学とも交流があり本当に多くの人達と出会うことができました。その甲斐あって僕の学校生活は本当に有意義なものとなりました。休みには友達とどこか遊びに行ったり、お酒を飲んだりと暇とお金の無い毎日を送っていました。こんな事ばかり書いてると遊んでしかいないと思われるので困るので、因みに学校はもちろん真面目に行っていました。今思い起こしてみてもよく動いていた三年間でした。皆さんに「本当にありがとうございます。」と同時に「これからも宜しくお願いします。」バドミントンの市民大会で二回優勝したぞ。僕は合唱部にも入っていたようです。キーワードは勉強、部活、酒、車、タバコです。